

6

Q & A

Q1

市販のフードの中にプレミアムと表示した製品がありますが、通常のフードとどこがちがうのでしょうか？

A

プレミアム・フードの定義は必ずしも決まっているものではありませんが、一般的には、消化性やアミノ酸のバランスが優れた原料を使用している、尿路結石や毛玉の抑制、関節の保護、老化の防止などに有効と思われる機能性を持つ原料を使用しているなど、通常のフードと差別化を図った製品群を指しています。

Q2

犬と猫を一緒に飼育しているのですが、犬が猫用（猫が犬用）のフードを食べてしまいます。犬が猫用のフードを、猫が犬用のフードを食べてしまっても大丈夫でしょうか？また、これを防ぐ方法はありますか？

A

元来、犬と猫は異なった動物であり、必要とする栄養素は違います。たまたま食べてしまう分には問題が生じることはありませんが、長期的には、特定の栄養素について過剰、不足が生じて健康上の問題を引き起こす可能性があります。頻繁に異種のフードを食べてしまう場合は、時間や場所を分けて与え、異種のフードを食べさせないようにする必要があります。

Q3

ライフステージごとに栄養の必要量が異なるため、ライフステージにあったフードを食べさせなければいけないと教えられましたが、ライフステージが異なる犬あるいは猫を数頭飼育している場合に、どのように管理すればよいのでしょうか？

A

一般的に幼犬・幼猫は成犬・成猫に比べて体重あたりの食餌エネルギーを何倍も必要とします。したがって、成犬用・成猫用のフードを幼犬・幼猫に与えると栄養不足になりますし、反対は、エネルギー過剰になって肥満になります。このため、ライフステージごとのフードを食べさせることは、とても重要です。複数頭を飼育する場合、例えば、子犬・子猫はケージの中でフードを食べさせる。食餌の時間が終わったら、すぐに片付ける。食餌時間をずらす。食餌を与える場所をそれぞれ変えるなどの工夫が考えられます。

Q 4

獣医さんから療法食の使用を薦められましたが、なかなか食べてくれません。食べてもらうために、なにか良い方法はないでしょうか？

A

急にフードを切替えると、犬や猫は慣れないフードに戸惑い食べないことがあります。また、嘔吐・下痢などの原因になる可能性がありますので、これまでのフードに少しずつ療法食を混ぜ、徐々にその量を増やしながら、1週間くらいかけて根気良く切替を行ってください。どうしても食べない場合は獣医師にご相談ください。

Q 5

複数の犬あるいは猫を飼育しているのですが、1頭だけ療法食を与えなければいけません。どのような管理が必要でしょうか？

A

1頭だけを違う場所で給餌するなど、食餌の時間や場所を分けて優先的に与えるとよいでしょう。他の犬や猫が食餌をしている時間は、別の場所に移動させるなど他の犬や猫が食べている場所に近づけないようにコントロールしてください。

Q 6

1種類のフードを与え続けているとすぐに飽きてしまい、仕方がないので、ジャーキーなどに頼ってしまいがちです。フードを飽きないで食べてもらう方法はないでしょうか？

A

まず、同じフードに飽きる「原因」を考える必要があります。塩分、脂肪含有量が高い味の強いものを覚えると、さらに味の強いフードを求めていく可能性があります。そのようなフードを長期に与えると栄養上、健康上の問題をおこしかねません。「フードに飽きる」背景には、家族の誰かが人の食事を与えていたり、味の強いおやつを与えていたりすることが原因になっているケースがあります。フードを食べなくてもおやつなどで栄養をとらせようとせず、次の食餌時間まで放っておくのも一つの方法です。また、フードに飽きやすい犬・猫の場合は、日頃から数種類のフードをローテーションさせてはいかがでしょうか。その場合、同じ栄養組成の製品の中で味が異なるものに変えてみたり、ドライフード、ウエットフードを試したりするのが良いでしょう。同じフードに犬または猫用のトッピングやふりかけを混ぜて与えてみるのも一つの方法です。

Q7

離乳食から普通食への切替えや成犬（猫）用からシニア用フードへの切替えのタイミングや、切替えの方法を教えてください。

A

離乳食から普通食への切替え時期と方法

犬又は猫の種類や個体差がありますが、生後約 50 ～ 60 日位から普通食への切り替えを行ってください。ドライフードをふやかして与えている場合は、歯が生え揃ってきたらふやかす時間を少しずつ短くして芯がのこる程度のものから徐々に慣らしていき、生後 50 日以降には少しずつ固形へ切り替えましょう。

シニア用フードへの切替え時期と方法

従来 of 食餌に少しずつ混ぜながら移行することをお勧めします。犬は犬種によって切り替える時期が違います。シニアに入る時期は、大型犬は6-7才、小型犬は8-10才くらいからと違いがあります。猫は7-10才くらいです。

特に健康に留意しスムーズに切り替えを行えるよう、慣れた食餌に少しずつ混ぜて、1～2週間かけて徐々に切り替える事をお勧めします。

Q8

大型犬を飼育しているのですが、ドライフードと一緒にカルシウム剤をサプリメントとして与えるとよいと聞きましたが、本当ですか？ また、犬や猫用に、ビタミンやミネラルなど様々なサプリメントが市販されていますが、それらの使用方法や適切な選び方を教えてください。

A

カルシウムについては不足しても過剰でも骨の代謝に影響します。与えているフードに適切な量のカルシウムが含まれている場合は、サプリメントの給与によって過剰になり、一部の犬種では股異形成や骨軟骨症などの発育期の整形外科疾患にもつながります。

特に、成長期の大型犬がカルシウムを過剰摂取すると、骨格異常を起こすこともあります。基本的に、必要量のカルシウムは総合栄養食（大型犬用）を与えていれば、足りるようになっています。なお、カルシウムが多めに含まれる小型犬用のフードを大型犬には与えないよう気をつけてください。

また、ビタミンやミネラルについても、犬又は猫が健康で何の問題もなければ、サプリメントは特に必要なく、バランスのとれたフードを与えることで十分と思われます。必要な場合は、それぞれの犬や猫が本当に補う必要のある栄養成分を獣医師に相談の上で、サプリメント等を与えることをお勧めします。